

京小麦の魅力発信と豊かな自然と食を活かした地域間交流

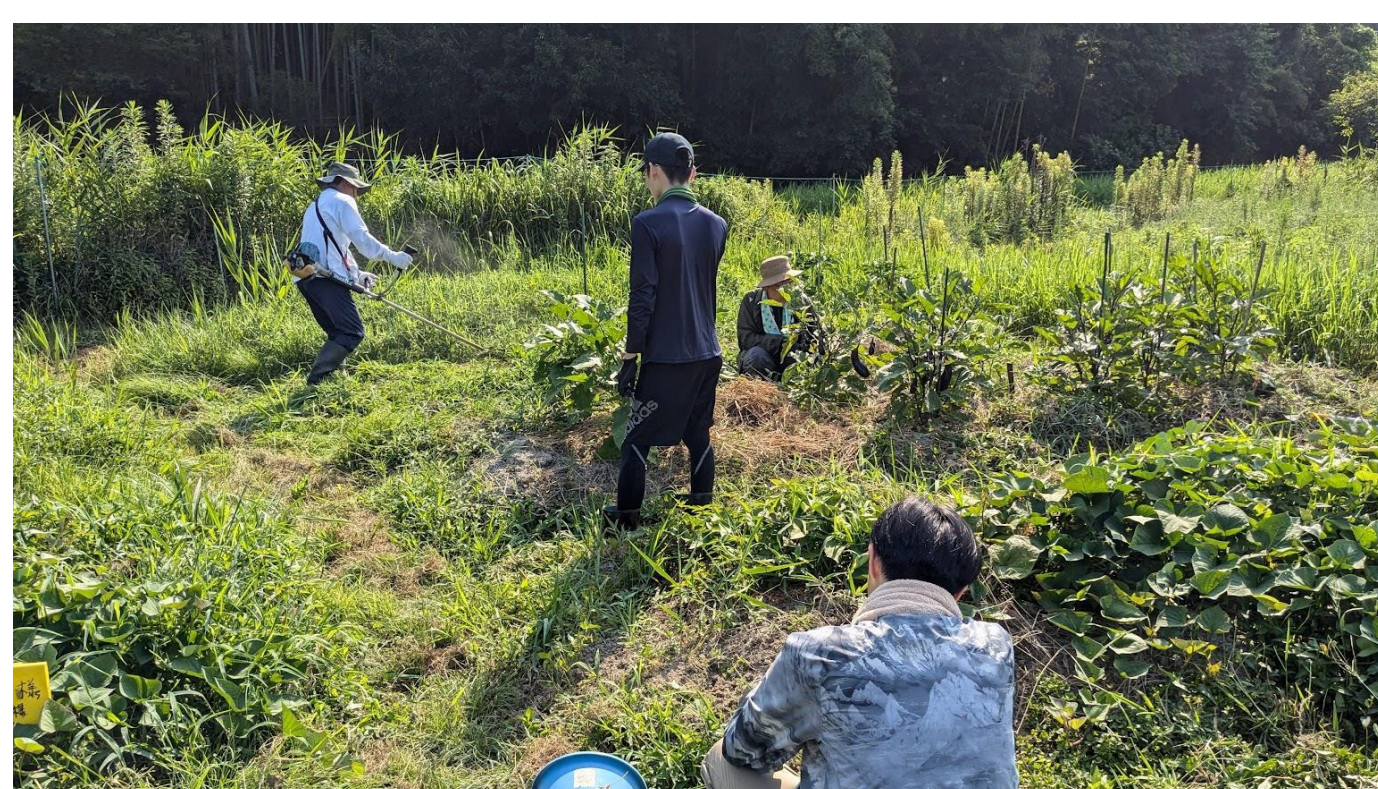
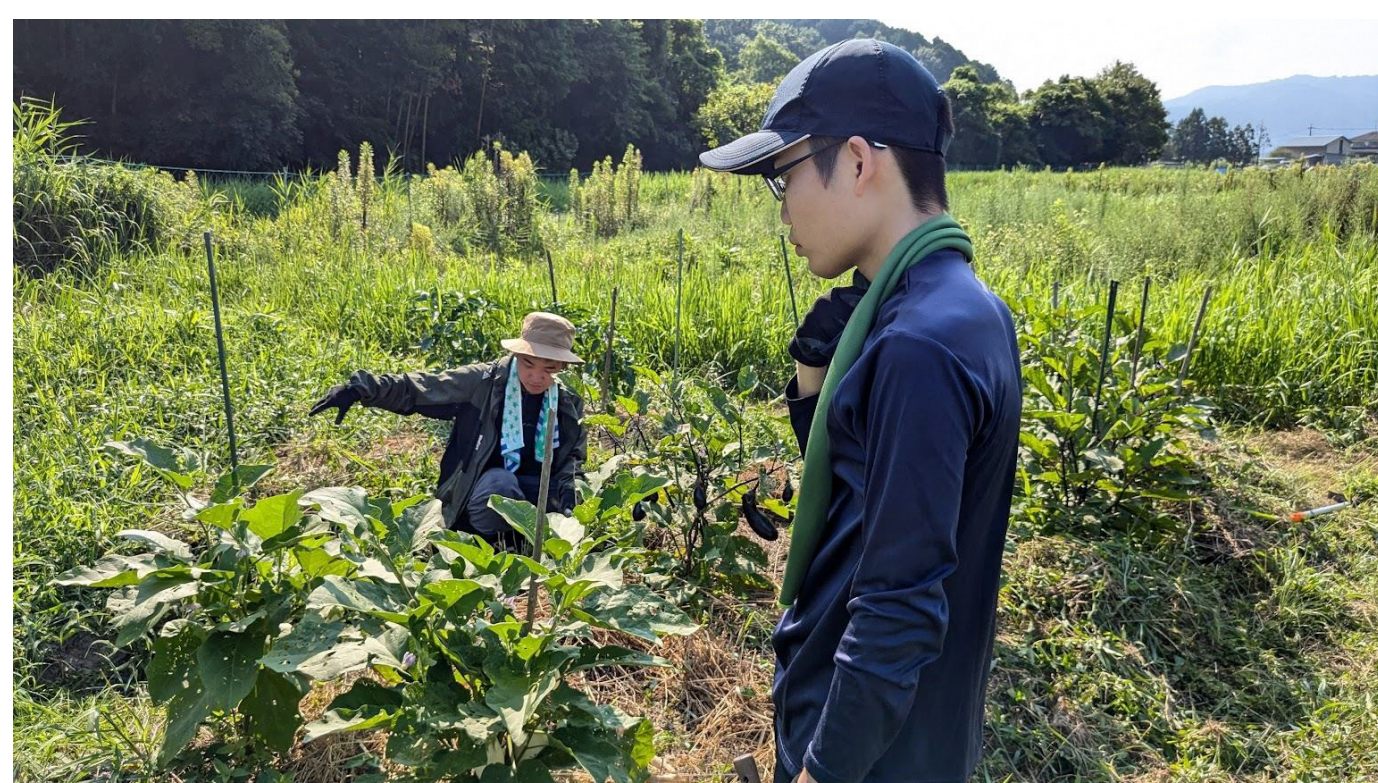
●京小麦の生産現場 河原林の視察・フィールドワークを実施（亀岡市）



日々京都で育てている京小麦は、大阪や奈良などの近畿地方をはじめ愛知や静岡などに広まり、今では148店舗で京小麦を使用した商品を提供している。2024年1月～4月までの12週間で、「京小麦の収穫祭2024」が行われた。京小麦を使用した商品はパンをはじめ、ラーメン・パスタ・ケーキ・お好み焼きなど種類が数多くあるが、中にはそのイベントでしか提供されない商品もあるので、今後行われる京小麦の収穫祭で提供される商品や出店する店舗などにも注目したい。今回のプロジェクトで京小麦の存在を理解することができた。今後は積極的に京小麦の魅力を発信していきたい。

●鹿谷ワンダービレッジに京都外国語大学の畑活動開始（亀岡市）

京都市内からマイクロバスで30分のところに広大な敷地が広がる鹿谷ワンダービレッジがあった。私たちの活動拠点として専用の畑が準備されていた。普段土に触れる機会もないのでとても新鮮な活動ができた。ナス、ピーマン、サツマイモを植えた。夏の合宿では同じく亀岡市にあるそうしんファームから鹿谷ワンダービレッジに向かった。炎天下での作業は思ったよりも厳しいものであったが、現地の方と協力しながら水巻、草刈りを行った。とても貴重な経験ができた。夏の収穫では想像以上に大きなナスが採れた。秋のサツマイモの収穫は思ったよりも小さく、鹿谷ワンダービレッジのスタッフの方に伺ったところ、収穫時期が少し早かったようだ。収穫体験を通して、普段口にしている食べ物のありがたみを知った。



●これまでの主な活動と今後の計画●

2024年	6月	農業組合法人河原林にて京小麦の現場視察・フィールドワーク
	7月～10月	鹿谷ワンダービレッジでの畑作業&交流
	11月	学園祭にて収穫物の無料配布（手話部への提供）
	12月	次年度の活動計画
	1月	活動範囲を拡大し、プロモーション動画の作成を行い、地域の魅力を発信する
2025年	4月	新たなメンバーで活動予定